



辰巳小だより

江東区立辰巳小学校
校長 松下 由美子
学校だより 第9号
令和6年1月9日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>



明けましておめでとうございます

校長 松下 由美子

今年も素晴らしい1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。保護者・地域の皆様には、昨年中は本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。

1月1日には石川県能登半島を中心とした大きな地震がありました。被害を受けられた皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。多くの方が今も不安な時を過ごされていると思います。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

そんな不安な中でしたが、1月2日、3日には第100回を迎える東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝）が行われました。100回の記念大会となった今年は、往路で優勝した青山学院大学が復路でも各区间でリードを広げ、10時間41分25秒の大会新記録で優勝を果たしました。毎年東京・大手町から箱根・芦ノ湖までの往復217.1kmを10人の大学生たちがそれぞれの大学の襷を繋ぎ、走り継ぐ箱根駅伝は日本のお正月の風物詩として人気となっています。その2日間には毎年ドラマがあり、ひたむきに走る学生たちとそれを支える仲間との友情が感動をよびます。

今回も優勝した青山学院大学の4年生の志貴勇斗主将が9区で選手たちの給水係を務め、チームを支えるというドラマがありました。12月11日に発表された登録メンバー16人の中には自分の名前はなかったといいます。最後の箱根を走ることはできませんでしたが、「主将としての最後の使命はこのチームを優勝させること」と明言し、チームの雰囲気盛り上げることに徹し、当日は給水係として喜びも苦しみもともに分かち合ってきた仲間と併走し、箱根路に別れを告げました。

原晋監督は、志貴主将が必死にチームをまとめる姿を見てただけに苦渋の決断だったと言っていました。その原監督が選手たちは自己ベストを更新しようと必死に努力をしている。しかし本番で結果が出ないことは多々ある。そこまで努力したら、結果は負けでも負けだとは思わない。負けの基準は努力しなかったら負け、これだけだと言っています。本人がやりきった結果ならたとえレースで負けてもその続きがあるはずだと・・・。

辰年である2024年がにこにこ元気にやりぬく辰巳イヤーになるよう努力を続けてまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。